

【この鳥を見よう】 ●カモの仲間 10月末から11月上旬にかけて、越冬のために第一陣が飛来。徐々に数を増やし、4月中旬にシベリアなど北国の繁殖地に渡っていくまでのおよそ半年間観察できます。

水面採餌ガモ 主に水面近くで餌を採るカモの仲間

一番多いのがヒドリガモ、次に多いのがオカヨシガモ、この2種類で、全体の飛来数のおよそ9割を占めます。

その他に、オナガガモ、コガモなどの小さな群れが見られます。時々見られる種：ヨシガモ、マガモ、ハシビロガモ
稀に見られる種：アメリカヒドリ、シマアジ

カモのみは越冬中にきれいな生殖羽に変身していき、美しい羽を♀にアピールしてプロポーズします(表紙写真 コガモの求愛行動)



オナガガモ♂ Northern Pintail
名前のおり長い尾が特徴のカモ
当地では数羽から20羽ほどが越冬
右 水浴びをする♀



コガモ(前♀後♂)
Common Teal
当地では10羽前後が越冬



ヨシガモ(前♀後♂)
Falcated duck
当地では時々1,2羽が見られる

潜水採餌ガモ 水中に潜って餌をとるカモの仲間



ホシハジロ(前♀後♂)
Common pochard
府内では、一番多く見られるカモ、
当地では10羽前後が越冬



キンクロハジロ(前♀後♂)
Tufted duck
当地では時々2,3羽が見られる



ヒドリガモ(左♂、右♀) Eurasian Wigeon
ここでは、一番数の多いカモで、シーズンを通して150羽前後が見られる。プーンと尻上がりの声でよく鳴く。



オカヨシガモ(左♀、右♂) Gadwall
当地では、ヒドリガモに次いで数の多いカモで、シーズンを通して50羽前後が見られる。府内全体の飛来数が700羽ほどであり、当地は最大級の越冬地となっている。

●放流口周辺に水鳥がたくさんあつまる理由

・食べ物がたくさんある

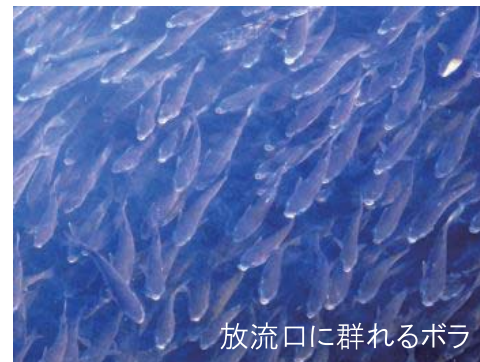
下水処理水が川の水より温かい(冬でも17℃程度)ことで藻類やプランクトンなどカモ類の好む食べ物がたくさんあること。同じく藻類やプランクトンを食べるボラなどの魚もびっけりするほど集まってきます(写真)。

そして、魚をねらってカワウやサギの仲間が集まってきます。

・安心して生活できる

川の堤防が高くて人が河川内に立ち入ることができないので、鳥たちは安心して食べ物をとったり、休んだりすることができます。

鳥たちを驚かさないう静かに観察しよう!



放流口に群れるボラ

— 生きもののくらしをささえる下水道 —
川俣水みらいセンター放流口周辺で見られる鳥たち

第二寝屋川野鳥観察ガイド



ヒドリガモ Eurasian Wigeon



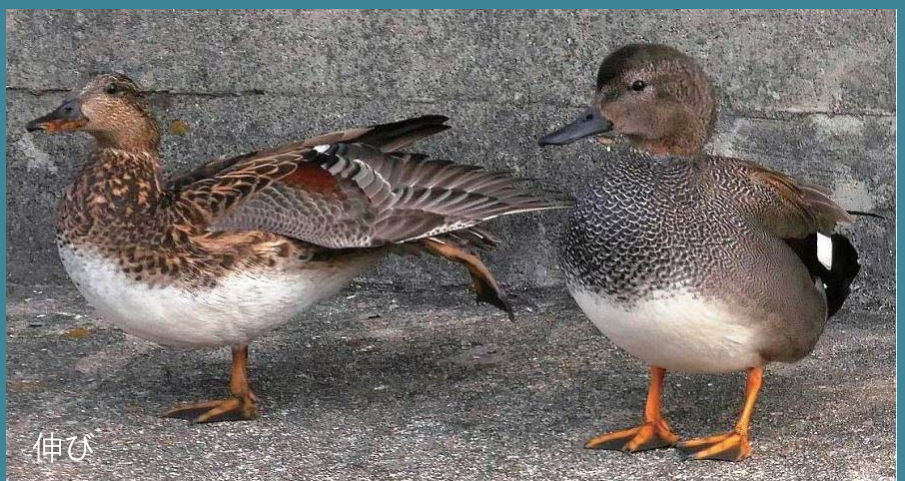
はばたき

オカヨシガモ Gadwall



求愛行動

コガモ Common Teal



伸び

オカヨシガモ Gadwall

大阪府東部流域下水道事務所

2020.2



第二寝屋川・川俣水みらいセンター放流口周辺に飛来する水鳥を観察しよう！

河川の生物の多様性をささえる下水道

一級河川「第二寝屋川」は、寝屋川・恩智川の水害対策として1969年(竣工年)に開削された運河で、自然の岸辺の全くない3面コンクリート張りの都市河川です。

川俣水みらいセンター(大阪府寝屋川(南部)流域下水道事業)では、主に東大阪市と八尾市、大東市、柏原市、大阪市の一部の下水を受入れて処理し、きれいな水にして第二寝屋川に放流しています。

川俣水みらいセンターからの下水処理水の放流口付近には、たくさんの水鳥が集まることが知られており、東大阪市内では最大の水鳥飛来地となっています。

特に、冬の渡り鳥であるカモの仲間が多く、放流口の周辺の水面で餌をとったり、河川内の高水敷の上で休んだりしている様子を間近に観察することができます。

水鳥の観察を通じて、河川の環境や生物の多様性、又、下水道が果たしている役割などにも関心を持っていただければと思います。



放流口近くの岸辺(高水敷)で休むヒドリガモとオカヨシガモの群れ



放流口のすきまに泳いで入っていくカモもいる



川俣水みらいセンターの下水処理水放流口に集まるカモの群れ 2019.11



ハクセキレイ White Wagtail



カワセミ Common Kingfisher



ユリカモメ Black-headed Gull



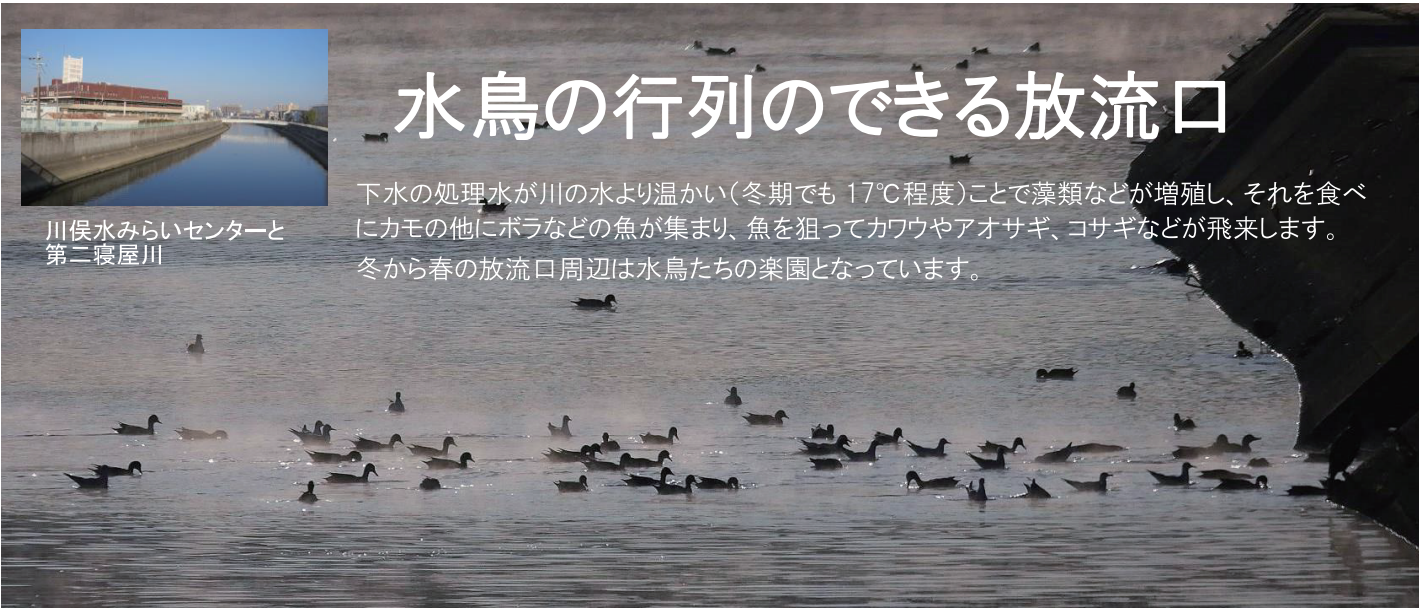
イソシギ Common Sandpiper



カワウ Great Cormorant



アオサギ Grey Heron



水鳥の行列のできる放流口

下水の処理水が川の水より温かい(冬期でも 17°C程度)ことで藻類などが増殖し、それを食べにカモの他にボラなどの魚が集まり、魚を狙ってカワウやアオサギ、コサギなどが飛来します。冬から春の放流口周辺は水鳥たちの楽園となっています。

川俣水みらいセンターと第二寝屋川



◆観察の時期

11月中旬から4月中旬頃までの間が多いカモが飛来して、観察に適した時期です。下水道の処理水の放流口周辺に集まり、水面にくちばしをつけて食べものをとっているカモが多く見られます。また、高水敷(川の岸辺)のコンクリートの上に群れて休んでいるものも多くなります。ただし、雨降りの後で河川が増水しているときには、カモはほとんど見られません。

◆観察ポイント

放流口に近い新楠根大橋からの観察がおすすめです。この橋は車が通行できない小さな橋です。下流にある丸屋大橋(ここは車の通行があり)からも河川全体の様子がよく見えます。川の近くの楠根川緑地では、春と秋には、思いがけない渡りの途中の小鳥に出会えることがあります。

■大阪府東部流域下水道事務所

〒577-0063 東大阪市川俣2丁目1-1 川俣水みらいセンター内
TEL 06-6784-3721

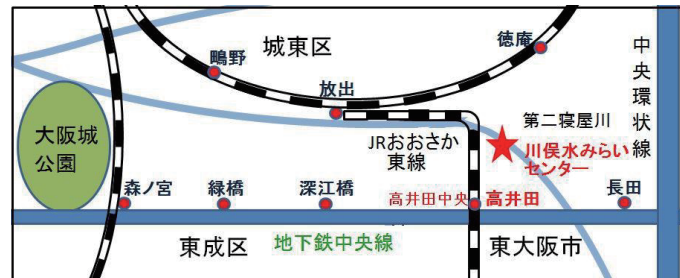
★最新の第二寝屋川の野鳥情報発信中
寝屋川流域協議会 Twitter
<https://twitter.com/neyakyogikaiPR>



★第二寝屋川野鳥観察ガイド

http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/35387/00316703/yatyouka_nsatugaido.pdf (上記 QRコード)

●川俣スカイランド(川俣水みらいセンター屋上開放緑地)
多目的に使用できる芝生広場、処理水の流れるせせらぎと散策路などを整備。どなたでもご利用いただけます(無料駐車場あり)。
開放時間:午前8時から午後5時
休園日:毎週火曜日(休日の場合は翌日)および年末年始



●第二寝屋川・川俣水みらいセンターへのアクセス

JRおおさか東線「高井田中央駅」下車北へ約700m
大阪メトロ中央線「高井田駅」下車北へ約700m

第二寝屋川で冬を越す野鳥

カモの仲間 (主なものは裏面)

留鳥のカルガモを含め、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロの7種が越冬。その他のカモは時々少数が見られる程度。



一年中見られる野鳥

サギの仲間

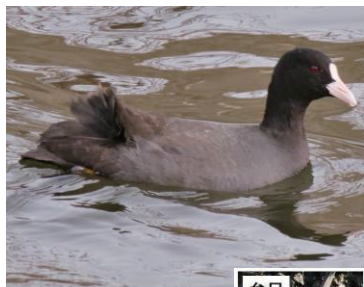


コサギ Little egret
岸辺で小魚を狙う



アオサギ Grey Heron
第二寝屋川では一番大きい鳥、魚を食べる様子がよく見られる

カモに似たクイナ科の水鳥 オオバン



オオバン Eurasian coot
多いときは30羽以上見られる。カモに似ているが、くちばしや足の形などが異なる。足にはカモの様な水かきはなく弁足といわれるひだがある。

カワウ Great Cormorant

水中に完全に潜り泳いで魚を追いかけて捕える。翼を大きく広げて乾かしている姿もよく見られる。



カラスの仲間



ハシボソガラス Jungle Crow
ハシボソガラスより少し大きく、くちばしも太い。

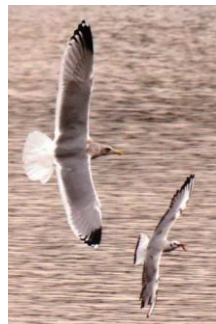


ここではボラをよく捕まえる



ハシボソガラス Carrion Crow
楠根小学校沿いのメタセコイアでは毎年、ハシボソガラスが営巣。巣材は針金ハンガーが多い。2019年には、ハシボソガラスも同じ並木で繁殖した。ハシボソはカー、ハシボソはガートにこった声で鳴く。

カモメの仲間



セグロカモメ Vega Gull
ユリカモメ Black-headed Gull
の2種が越冬

セグロカモメの方がずいぶん大きい

ユリカモメ幼鳥を追うセグロカモメ

一年中見られる野鳥

カルガモ

他のカモと異なり、カルガモは留鳥として1年中見られる。夏にはかわいいヒナを連れている姿が見られることも。2010年頃まで川俣スカイランドでも繁殖していた。



カルガモ Eastern spot-billed duck

その他の鳥 スズメ、ハクセキレイなどが水辺でよく観察できる。カワセミやインヒヨドリも時々観察できる。

バードウォッチングを楽しもう

■野鳥観察をはじめのために
双眼鏡:8倍や10倍程度のものがおすすめ
図鑑:ポケットに入る程度のものを用意しよう。
手帳:観察した鳥の名前などを記録しよう
冬の観察は寒さ対策を十分に



川俣水みらいセンターのロビーには、野鳥の解説パネルを多数展示中。観察の際にはぜひ立ち寄りください。
※平日のみ開庁

冬～春に第二寝屋川で観察できる野鳥チェックリスト

科名	No	種名	チェック	区分	観察頻度
カモ	1	オカヨシガモ		冬鳥	◎
	2	ヨシガモ		冬鳥	△
	3	ヒドリガモ		冬鳥	◎
	4	アメリカヒドリ		冬鳥	×
	5	マガモ		冬鳥	△
	6	カルガモ		留鳥	○
	7	ハシビロガモ		冬鳥	△
	8	オナガガモ		冬鳥	◎
	9	シマアジ		旅鳥	×
	10	コガモ		冬鳥	◎
	11	ホシハジロ		冬鳥	○
	12	キンクロハジロ		冬鳥	○
カイツブリ	13	カイツブリ		留鳥	×
ウ	14	カワウ		留鳥	◎
サギ	15	ゴイサギ		夏鳥	△
	16	アオサギ		留鳥	◎
	17	ダイサギ		留鳥	△
18	コサギ		留鳥	◎	
クイナ	19	オオバン		冬鳥	◎
シギ	20	イソシギ		留鳥	○
カモメ	21	ユリカモメ		冬鳥	○
	22	セグロカモメ		冬鳥	○
ハト	23	キジバト		留鳥	○
カワセミ	24	カワセミ		留鳥	△
ハヤブサ	25	チョウゲンボウ		留鳥	△
モズ	26	モズ		留鳥	△
カラス	27	ハシボソガラス		留鳥	◎
	28	ハシブトガラス		留鳥	○
ムクドリ	29	ムクドリ		留鳥	○
ヒタキ	30	ツグミ		冬鳥	○
	31	ジョウビタキ		冬鳥	○
	32	インヒヨドリ		留鳥	△
スズメ	33	スズメ		留鳥	◎
	34	ハクセキレイ		留鳥	◎

観察頻度:◎よく見られる ○普通 △時々 ×まれ

発行 2020年2月 協力:日本野鳥の会大阪支部